

岐阜市横断歩道橋長寿命化修繕計画



学園町歩道橋（令和 4 年 8 月修繕）

令和 8 年 8 月改訂

（平成 30 年 3 月制定）

岐阜市 基盤整備部 道路維持課

—目 次—

第1章 公共施設の現状と課題	1
1.1 現状と課題	1
1.2 今後の公共施設の方針	2
第2章 横断歩道橋の老朽化対策における基本方針	3
2.1 施設類型(横断歩道橋)の計画期間	3
2.2 横断歩道橋の老朽化の状況	4
2.3 横断歩道橋の老朽化対策における基本方針	5
2.3.1 老朽化対策の考え方	5
2.3.2 老朽化対策の計画的な取り組み	5
2.3.3 維持管理体制の方針内容	6
2.3.4 老朽化対策における基本方針	7
2.4 新技術等の活用方針	7
2.4.1 新技術等の活用に関する方針内容	7
2.5 施設総量・配置の最適化	7
2.5.1 撤去・集約の考え方	7

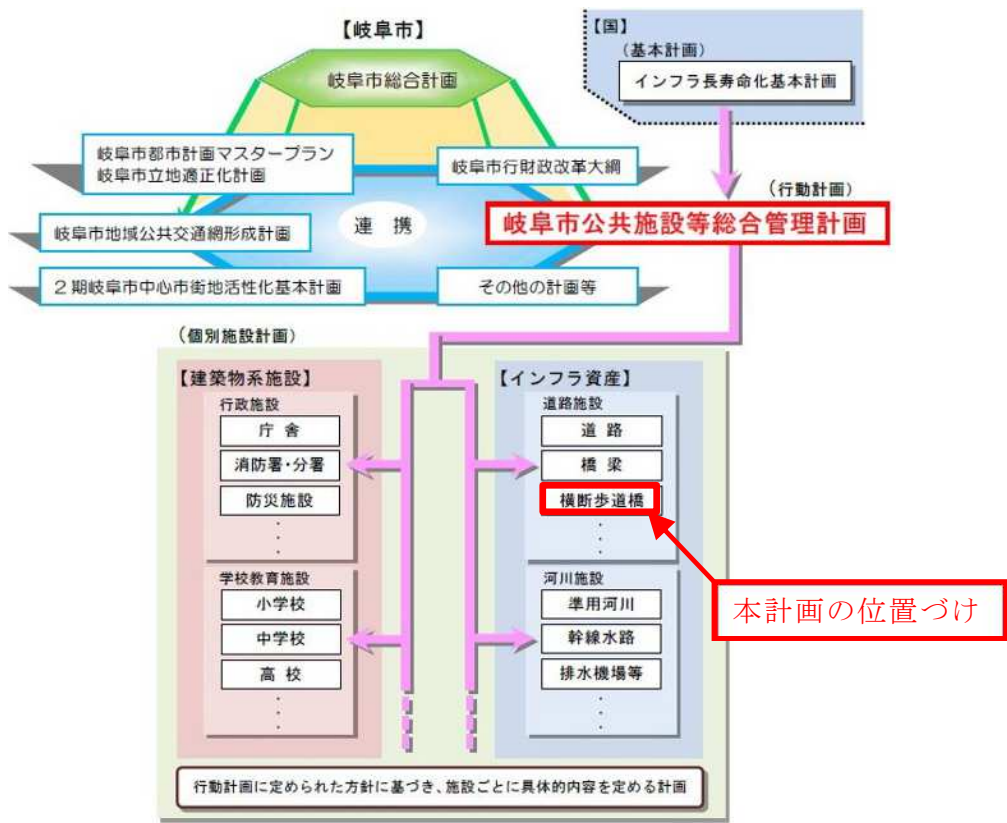
第1章 公共施設の現状と課題

1.1 現状と課題

本市では、高度経済成長の人口増加や社会情勢の変化、市民のニーズの多様化に対応するため、昭和30年代から50年代にかけて多くの社会資本を整備してきたが、今後、数年で耐用年数を迎える公共施設が増加する現状を踏まえ、平成29年3月に、インフラ長寿命化の行動計画である「岐阜市公共施設等総合管理計画」令和4年3月改定（以下、「総合管理計画」という。）を策定しており、これに基づき、公共施設のマネジメントを推進し、財政負担の軽減・平準化に取り組んでいる。

「岐阜市横断歩道橋長寿命化修繕計画」は、インフラ長寿命化の個別施設計画にあたるものであり、さらなる厳しい財政状況下において、安全・安心に利用可能なインフラ施設の維持管理に努めていく必要がある。

【岐阜市横断歩道橋長寿命化修繕計画の位置づけ】



将来

背景① 公共施設等の老朽化の進展

- 公共施設等の老朽化が進んでおり、施設の安全対策が必要となる。
- 公共施設等の老朽化に伴い、維持管理、修繕、更新にかかる経費が増大する。

背景② 厳しい財政状況

- 人口減少、少子高齢化が進み、税収の増加が見込めない一方で、社会保障に係る経費や公共施設等の老朽化に伴う経費が増大する。

背景③ 公共施設等の利用需要の変化

- 少子高齢化が進み、人口構造が変化するため、公共サービスのニーズが変化する。

将来的には、全ての公共施設等を維持しながら、公共サービスを提供することは困難となる

【課題】

課題①

破損に伴う事故の発生や危険性の増大
公共施設等の安全性の確保

課題②

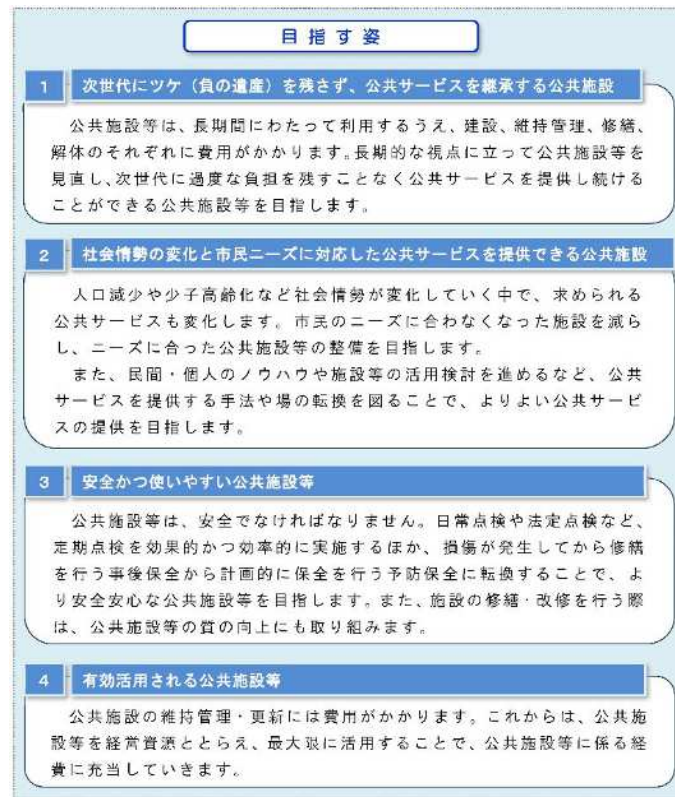
支出増大による財政負担の増大
財政負担の軽減

課題③

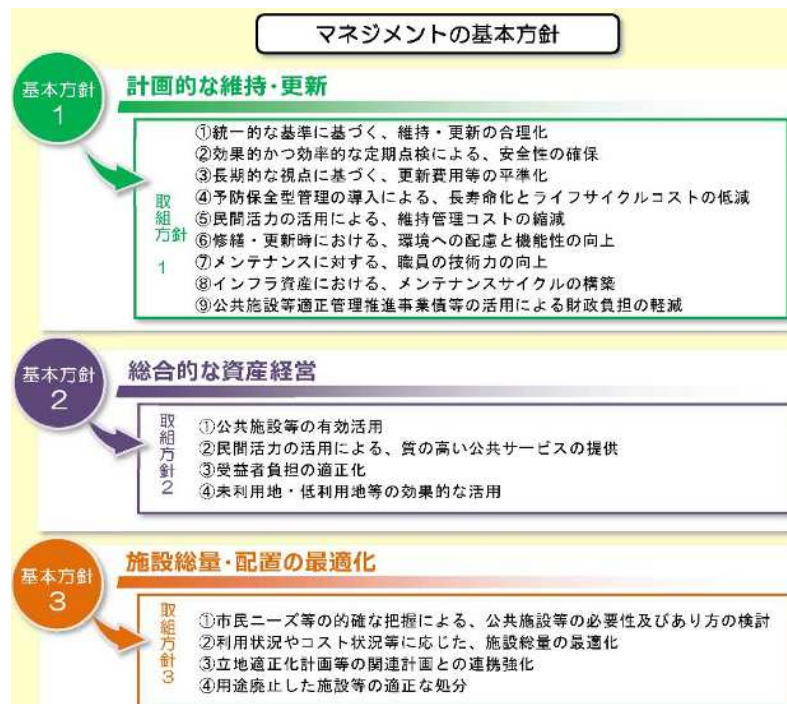
施設の需要と供給のミスマッチング
公共施設等の最適化

1.2 今後の公共施設の方向性

「総合管理計画」では、今後の本市の公共施設等の目指す方向性（目指す姿）は、以下の4つの姿の実現を目指す。



上記の目指す姿を実現するためには、総合的に管理、活用する「公共施設マネジメント」に取り組んでいく必要があります。「総合管理計画」では、今後のマネジメントの基本方針を以下のとおり定めている。



第2章 横断歩道橋の老朽化対策における基本方針

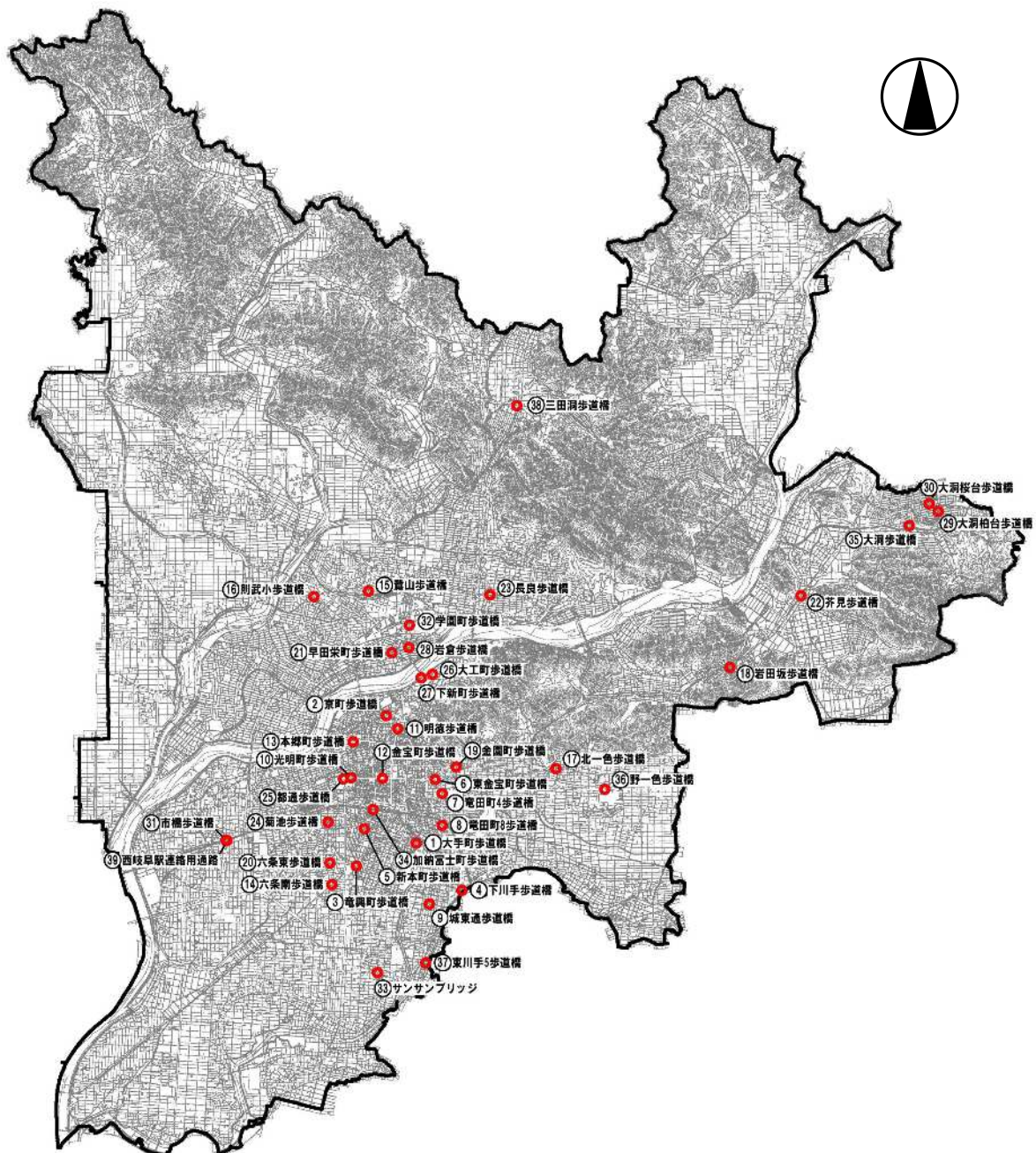
2.1 施設類型(横断歩道橋)の計画期間

「総合管理計画」では公共施設のマネジメントの基本方針を基に、各施設の特徴を踏まえた上で、今後、施設類型ごとに共通する基本方針と施設ごとの取組を定める方針となっている。

このため、施設類型として道路施設の内、本市が管理する横断歩道橋について、具体的な維持管理方針を定める。対象歩道橋 38 橋のうち 30 橋は既に建設後 50 年以上経過している。

したがって、本長寿命化計画を行うことによって歩道橋の寿命を 100 年に延長するものとする。最も建造年の古い歩道橋の経過年数が 61 年であることから、本計画期間は 100 年－61 年＝39 年≒50 年とした。

横断歩道橋(岐阜市管理)位置図



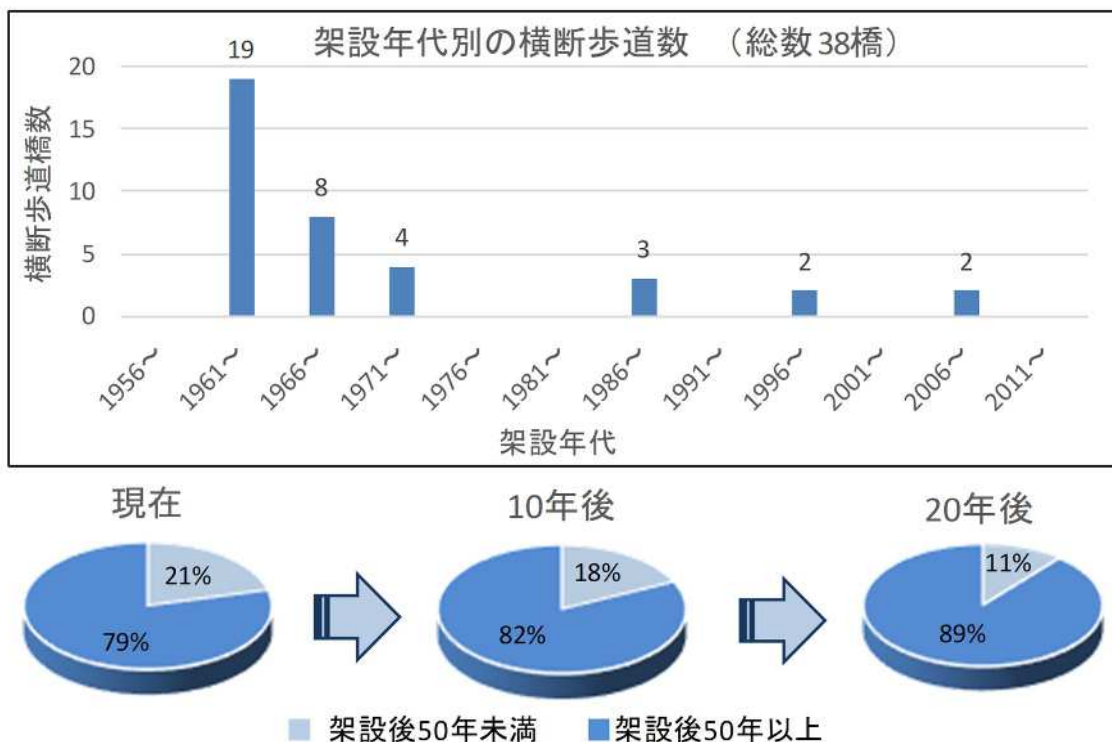
2.2 横断歩道橋の老朽化の状況

本市管理の横断歩道橋は、1962年（昭和37年）の大手町歩道橋ほか7橋から、2009年（平成21年）の東川手5横断歩道橋まで建設され、経過年数は61年から14年となっている。

【横断歩道橋の経過年数】

ID	名 称	竣工年	経過年数	ID	名 称	竣工年	経過年数
1	大手町歩道橋	1962年	61年	20	六条東歩道橋	1966年	57年
2	京町歩道橋	1962年	61年	21	早田栄町歩道橋	1967年	56年
3	竜興町歩道橋	1962年	61年	22	芥見歩道橋	1967年	56年
4	下川手歩道橋	1962年	61年	23	長良歩道橋	1968年	55年
5	新本町歩道橋	1962年	61年	24	菊地歩道橋	1968年	55年
6	東金宝町歩道橋	1962年	61年	25	都通歩道橋	1968年	55年
7	竜田町4歩道橋	1962年	61年	26	大工町歩道橋	1969年	54年
8	竜田町8歩道橋	1962年	61年	27	下新町歩道橋	1971年	52年
9	城東通歩道橋	1963年	60年	28	岩倉歩道橋	1973年	50年
10	光明町歩道橋	1963年	60年	29	大洞柏台歩道橋	1973年	50年
11	明德町歩道橋	1963年	60年	30	大洞桜台歩道橋	1974年	49年
12	金宝町歩道橋	1963年	60年	31	市橋歩道橋	1987年	36年
13	本郷町歩道橋	1963年	60年	32	学園町歩道橋	1988年	35年
14	六条南歩道橋	1963年	60年	33	サンサンブリッジ	1990年	33年
15	鷺山歩道橋	1964年	59年	34	加納富士町歩道橋	1998年	25年
16	則武小歩道橋	1964年	59年	35	大洞歩道橋	1999年	24年
17	北一色歩道橋	1964年	59年	36	野一色歩道橋	2006年	17年
18	岩田坂歩道橋	1965年	58年	37	東川手5横断歩道橋	2009年	14年
19	金園町歩道橋	1965年	58年	38	三田洞横断歩道橋	1969年	54年

令和5年3月現在、建設後50年以上経過した横断歩道橋はすでに30橋（約79%）あり、10年後には31橋（約82%）、20年後には34橋（約89%）まで増加する。



2.3 横断歩道橋の老朽化対策における基本方針

2.3.1 老朽化対策の考え方

岐阜市が管理する横断歩道橋は、建設から50年以上経過したものが多く、老朽化が進んでいる。施設を効率的かつ効果的に維持管理していくことで、ライフサイクルコスト(以下 LCC)の低減を図る。そのためには、持続的な維持管理体制を確立し、計画的かつ効率的な予防保全型の修繕や撤去を実施することが必要である。

2.3.2 老朽化対策の計画的な取り組み

従来の対症療法的な修繕から、計画的かつ予防保全的な修繕に転換し、安全で安心な道路サービスの提供を行うとともに、横断歩道橋の耐用年数の延長あるいは撤去による維持管理コストの縮減および予算の平準化を図ることを目的とする。

今後急速に増大する高齢化した橋梁の維持管理に対応するため、今後も従来型の事後的な修繕・架替えから予防的な修繕・計画的な架替えへと円滑な政策転換を図る必要がある。

計画的な老朽化対策として、「総合管理計画」の基本方針「計画的な維持・更新」の各項目に対し、横断歩道橋においては以下の具体的な計画とする。

【計画的な維持・更新】

項目	基本方針	計画
①	統一的な基準に基づく、維持・更新の合理化	「岐阜県横断歩道橋点検マニュアル」の基準による点検・診断手法による
②	効果的かつ効率的な定期点検による、安全性の確保	「岐阜県横断歩道橋点検マニュアル」により5年に1回の定期点検を実施する
③	長期的な視点に基づく、更新費用等の平準化	個々の施設について修繕計画の立案
④	予防保全型管理の導入による、長寿命化とライフサイクルコストの低減	定期点検結果により施設の予防保全・長寿命化対策の立案
⑤	民間活力の活用による、維持管理コストの縮減	今後、新技術を取り入れるなど、維持管理コストの縮減に努める
⑥	維持・更新時における、環境への配慮と機能性の向上	照明灯のLED化、耐久性の高い塗装の採用
⑦	メンテナンスに対する、職員の技術力の向上	MEの資格取得に努める
⑧	インフラ資産における、メンテナンスサイクルの構築	定期点検結果のデータ化・修繕計画の立案

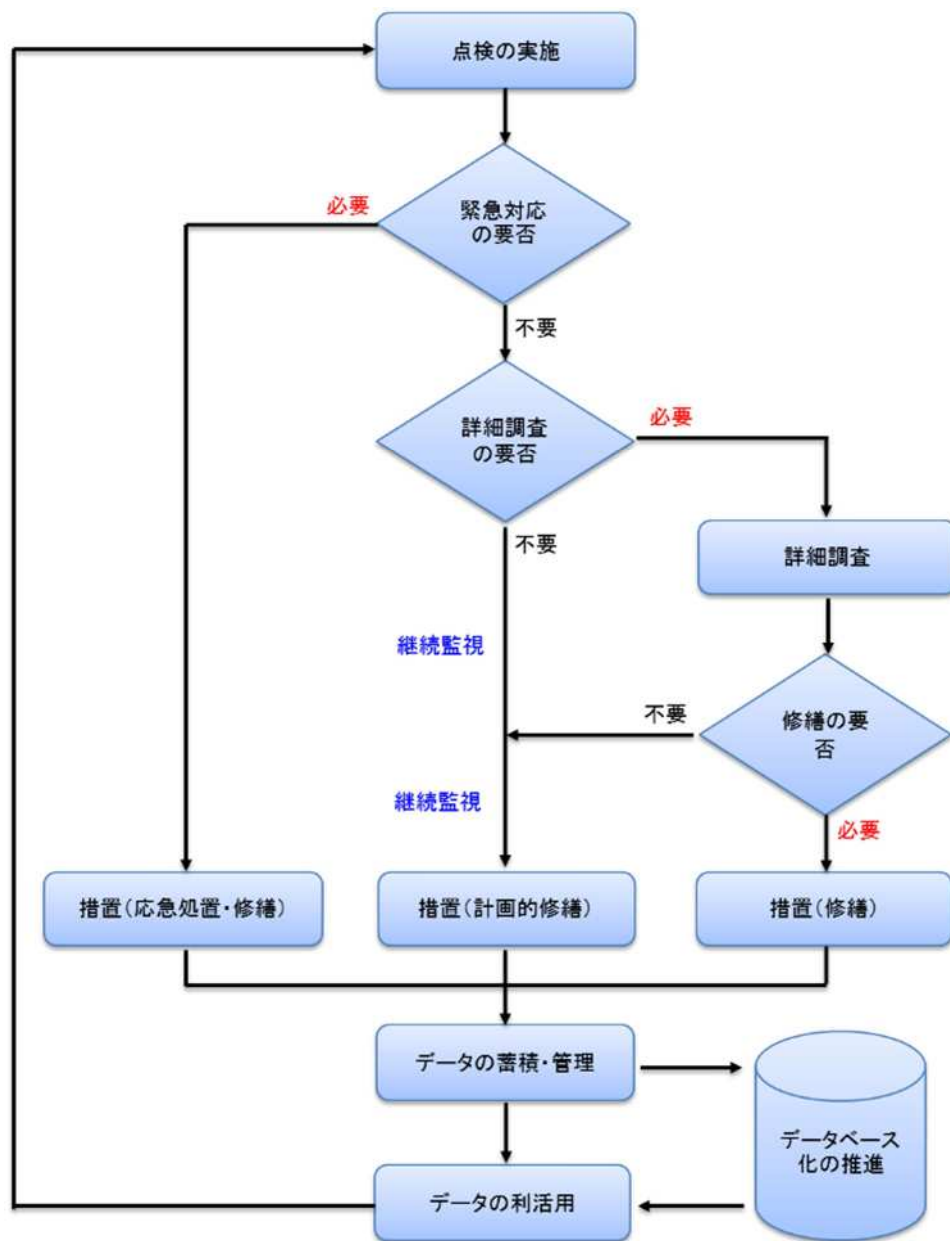
- ① 統一的な基準として、「岐阜県横断歩道橋点検マニュアル」（令和2年3月）を用いて、横断歩道橋施設の現状（損傷状況）を的確に把握し、診断する。
- ② 日常のパトロールに加え、「岐阜県横断歩道橋点検マニュアル」に基づき、5年に1回の定期点検を継続的に実施し、損傷の有無、進行状況から専門知識を有する点検員により、損傷の判定を行う。
- ③ 将来にわたって安全で持続可能なように延命化するために、管理する38の横断歩道橋の損傷状況を的確に診断し、修繕計画を立案する。
- ④ 従来の事後保全型であったものから予防保全型のマネジメントに転換させるため、長寿命化とLCCの低減を図る対策を立案する。
- ⑤ 民間で開発された新技術を活用することなどにより、効率的な施設の維持管理を行い、コストの縮減に努める。
- ⑥ 施設を修繕・更新する際は、省エネルギーかつ耐久力のある構造や設備（照明のLED化、重防食塗装等）を取り入れ、環境への配慮と機能性の向上を図る。
- ⑦ 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）の資格取得に努め、職員のメンテナンスに対する技術力の向上に努める。
- ⑧ 定期点検データ、修繕対策（設計・工事）を将来にわたって管理し、損傷の進行状況の的確な把握につなげ、将来の修繕計画及び計画の見直しの基とする。

2. 3. 3 維持管理体制の方針内容

本計画を策定することで、横断歩道橋の点検頻度や点検方法を明確に定め、継続的に横断歩道橋の健全度(損傷状況)を把握し、必要な対策を講じる方針とする。

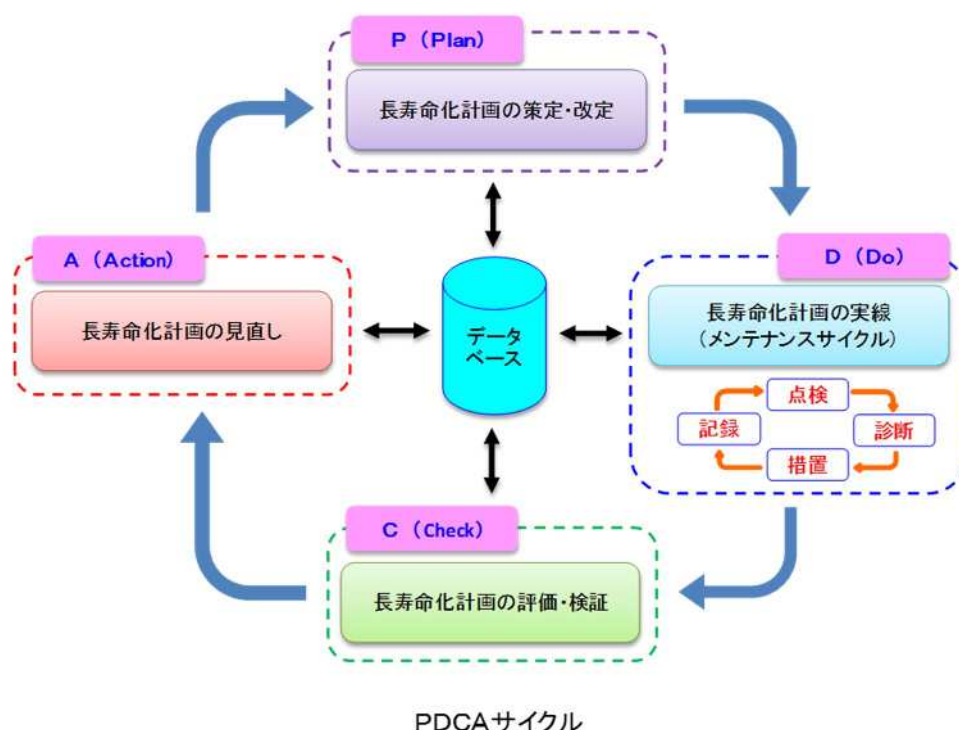
長寿命化修繕計画は、橋梁定期点検結果を基礎データとして用いて立案する。計画は、重要な橋梁から優先的に実施する事が望ましいため、その計画対象の橋梁を選定する必要がある。

岐阜県の点検マニュアル等により以下の維持管理フローを基本として管理する。



横断歩道橋のメンテナンスサイクル図

以上を実施することにより、横断歩道橋について将来にわたって、計画的な維持・更新のマネジメントを行い、P(長寿命化計画の策定)⇒D(長寿命化の実践)⇒C(長寿命化の評価・検証)⇒A(長寿命化の計画の見直し)サイクルを構築する。



2. 3. 4 老朽化対策における基本方針

岐阜市が管理する横断歩道橋は、建設から 50 年以上経過したものが多く、老朽化が進んでいる。施設を効率的かつ効果的に維持管理していくことが重要で、持続的な維持管理体制を確立し、計画的な修繕を実施することで、施設の老朽化対策を図ります。

2. 4 新技術の活用方針

2. 4 .1 新技術の活用方針

点検や修繕の実施に当たっては、新技術を活用し、事業の効率化やコスト削減を図ります。具体的には、令和13年度までに3箇所程度で新技術を活用し、維持管理に係る費用を2百万円程度削減することを目標とします。

2. 5 施設総量・配置の最適化

2. 5.1 撤去・集約の考え方

令和5年度に、下新町歩道橋の撤去を行った。今後についても、維持管理コストの削減を目的として、利用状況・損傷状況及び地元調整等を踏まえて、令和17年度までに2橋を撤去・集約し、維持管理コスト30百万円程度削減することを目標とします。